あなたをやさしくエスコートする…
カワムラサイクル



電動車いす

KE15 シリーズ

取扱説明書



このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。
※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用いただく際には必ず携帯してください。



株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意　※ご使用になる前に必ずお読みください。

[表示マークの説明]



この表示は「人が死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



この表示は「人が障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

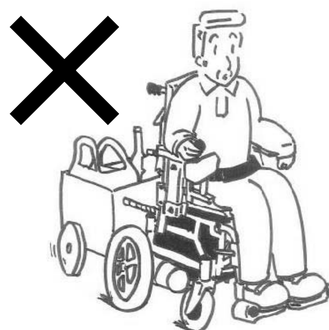


この表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

禁 止

●カワムラサイクルの電動カートは道路交通法の「身体障害者用車いす」に該当し、走行中は歩行者として取扱われます。従って「運転免許証」は必要なく、道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。また、大きく寸法の改造を行う場合には警察の確認が必要です。その際は販売店にご相談ください。

●この商品は電動カートです。電動カート以外の目的で使用しないでください。
（車や荷物をけん引することは禁止されています。）





●酒気帯び運転は操作を誤る危険性がございますので、絶対にお止めください。また、気分が優れないときも運転しないでください。

●勝手に改造・分解しないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。（保証対象外となります。）

警 告

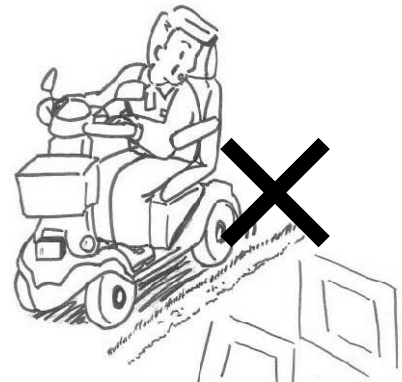
● 電動カートを火気に近付けないでください。
※ボディーが変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、大変危険です。



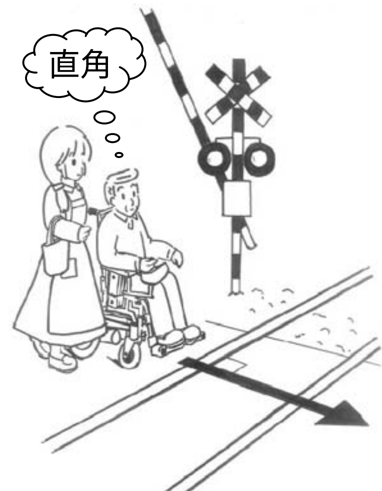
● 携帯電話や PHS、トランシーバ等の通信機器から出る電磁波が、まれに周りの電気機器類に悪影響を及ぼす場合があることが知られています。万一電動カートがこの電磁波の影響を受けて停止したと思われる場合は、慌てずに一旦電源を切り、周りに携帯電話等を使用している人がいない（1.5m 以上離れている）ことを確認し、再度電源スイッチを入れ直し、3 秒数えてからゆっくりとアクセルバーを押して発進してください。
また、高圧線やテレビ塔など強い電磁波が出ている場所での使用は避けてください。

⚠ 警告

● 踏み切り、川の端、手すりのない橋等は大変危険ですので、出来るだけ避けて運転してください。また、交通量の激しい道路や踏み切り等は介助者と一緒に走行されることをお勧め致します。



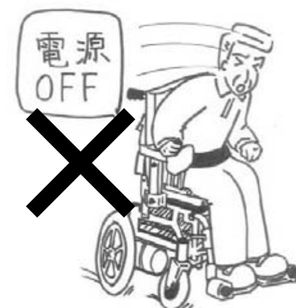
● 踏み切りや溝を横断する場合は、必ず一旦停止し、安全を確かめてから横断してください。また、進入するさいは、線路（溝）に車輪がはまらないよう線路（溝）に対して直角に横断してください。



● 万一、踏み切りや歩道内で立往生した場合は、左側後輪部付近のクラッチレバーを『手動』状態にし、手で押して脱出してください。

● 電車や自動車が近づくなど危険な場所は、身の安全を優先し、安全な場所へ直ちに避難してください。

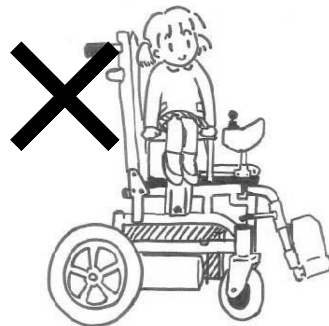
● 走行中に電源のスイッチを切らないでください。急停止して危険です。





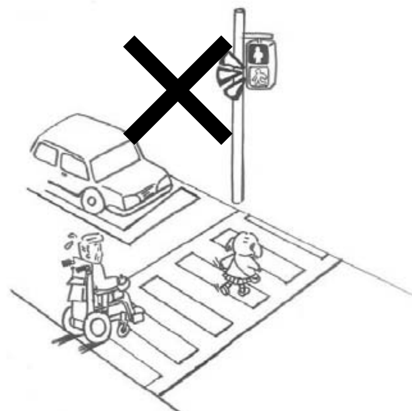
●後進の時は、周囲の安全をよく確認してゆっくりと運転してください。

● シート部以外に腰掛けないでください。



⚠ 警 告

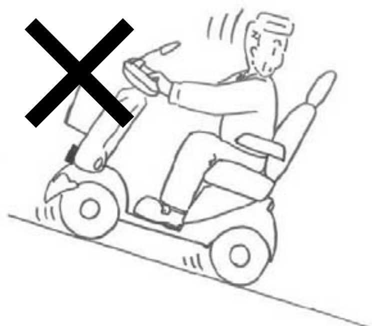
● 大きな交差点では信号を一回待って横断してください。
途中で信号が変わるおそれがあり危険です。





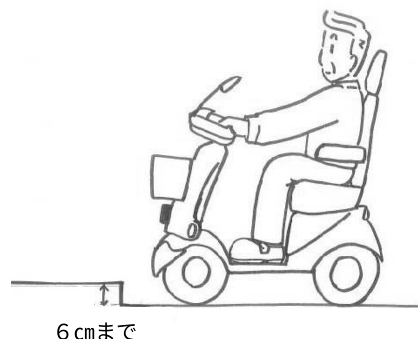
● 雨の日の運転は避けてください。雨水が操作パネル内に入ると操縦不能になる事があり、危険です。
また、水洗いしないでください。

●夜間の走行は避けてください。



●坂道での後進は転倒する恐れがありますので、絶対にしないでください。
（下り坂は必ず前進で、速度調節ダイヤルを『低速』に合わせ、慎重に走行してください。）

●大きな段差・溝の乗越えは避けて走行してください。
乗越えできる最大段差は６cmまでです。
段差に対して直角方向に乗越え、上り坂は特に避けてください。



●乗越えできる溝の最大幅は１０cmまでです。
溝に対して直角方向に乗越え、上り坂は特に避けてください。

●階段やエスカレーターでの使用はしないでください。



⚠ 注 意

● 下記のようなところに電動車いすを放置しないでください。

・車道に近いところ　・人通りのあるところ　・路面に段差や凸凹のあるところ
・湿気の多いところ　・雨風の当たるところ　・火気のあるところ
・傾斜地

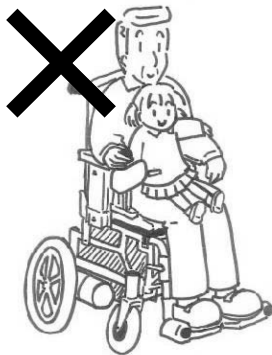
●次のような場所や状況では、転倒や故障の原因となりますので、走行を避けてください。

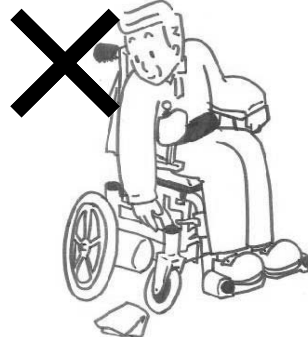
・雪道　・ぬかるんだ道　・砂利道　・凸凹の激しい道
・凍結した道　・水たまり　・夜間　・降雨
・降雪　・濃霧　・強風時など

● アクセルレバーは出来るだけゆっくり操作してください。急な操作を行なうと、急発進・急停止になり大変危険です。また急発進を繰り返し行なうと、モーターに過負担がかかり故障の原因につながります。

● 深い砂・砂利道・ぬかるみは避けてください。車輪がめり込んで動けなくなる事があり、故障の原因になります。

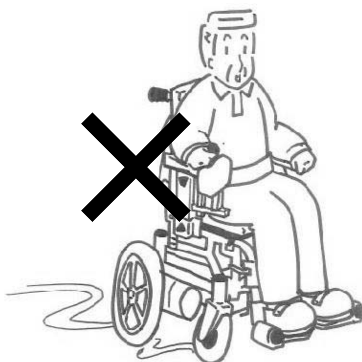
● この電動カートは 1 人乗りです。危険ですので二人乗りはしないでください。
また、走行中に身を乗り出したり、足を出したりすると危険ですのでお止めください。

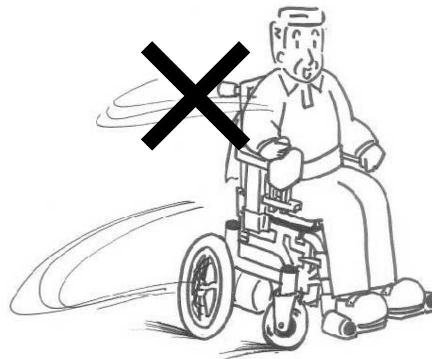




● 使用されない時、また離れる時は、いたずら防止のためキーを抜いておくことをお勧め致します。

● 蛇行運転、急旋回、急発進、急制動はさけてください。





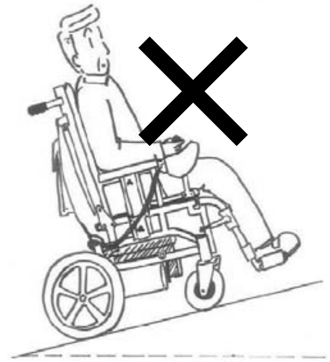
⚠ 注 意

● 雪道は道路が滑りやすく大変危険ですので、運転をお止め下さい。

● 急な坂道を上り下りする事は避けて下さい。

● 急な坂道の走行は、転倒の恐れがありますので避けてください。

● 坂道は斜め走行や横切る事をせず、まっすぐ前進で上り下りしてください。

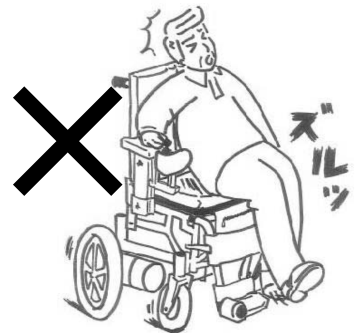


● 急な坂道を連続して走行すると、急にブレーキが効いて動かなくなる時がありますが、これは回路ブレーカーが働いた為ですので、ブレーカーを押し込むと、再度運転することが出来ます。
（ブレーカーが働く時は、能力を超えたことになりますので、進路を変えてください。ブレーカーはバッテリー交換用足元カバーを開けてバッテリーの間にあります。）

● 突起物、障害物は避けて走行してください。また、突起物、障害物を左右の車輪の間にくぐらせるような走行は避けて下さい。バッテリーやモーターを破損する恐れがあります。

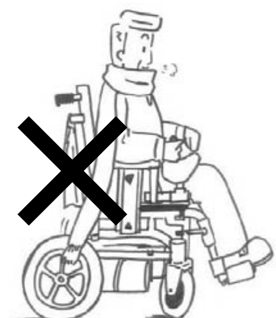
● 前の方に座って運転すると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。深く座って運転してください。

● ギア・モーター部より異常な音が出た場合はご使用を避け、お買い上げの販売店にご相談ください。



● 回転している車輪に指を差し込まないように注意してください。また、衣服等が車輪にからまないようご注意ください。

● 使用者の最大体重は１００kg(積載物を含む)です。重量をオーバーしないように使用してください。



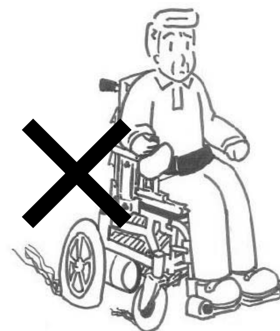
⚠ 注 意

●ギヤ・モーター部より異常な音が出るのは故障の前触れですので、ご使用を避け、修理をお申し出下さい。



●走行中は揺れますので必ず安全ベルトを装着してください。

●空気圧が低すぎると走行が不安定になります。



●コントローラーを落下させたり、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

●座面を上げた状態、チルト又はリクライニングした状態で走行しないでください。転倒する恐れがあります。

●昇降、チルト機構部、及びリクライニング機構部に手や足を入れないでください。けがをする恐れがあります。

●昇降、チルト及び、リクライニングを操作するときは足をフットプレートから下ろさないでください。けがをする恐れがあります。

●昇降、チルトと、リクライニングを併用すると、バランスを崩し大変危険です。リクライニングしたまま昇降、チルトさせたり座面を上げたままリクライニングしないでください。

●リクライニングの操作をするときは走行用コントローラーの電源を切ってから行ってください。コードが絡まったり、手などが当たり走り出す恐れがあります。

●電動リクライニング用コントローラーがフックにかかっていることを確認してから走行してください。外れたまま走行しますと破損、誤作動の原因になります。

●電動リクライニング用コントローラーのコードを引っ張りすぎないでください。コードが伸びて車輪等に絡まる恐れがあります。



《 型 式 認 定 》　国家公安委員会から型式認定をうけております。

「ＴＳマーク」は、道路交通法令などに定められている基準を満たし、国家公安委員会の型式認定を受けた場合に貼ることができる標章です。

１.同梱部品の確認

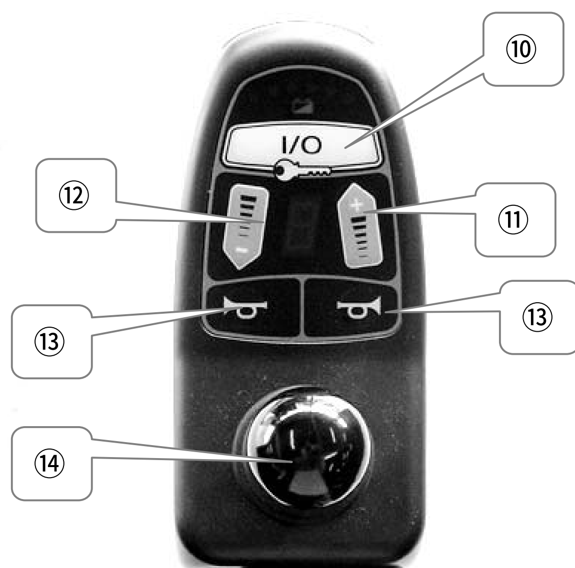
本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・マグネットキー　１個	・操作ボックス　１個
・転倒防止車輪　１ペア	・肘掛け（左右）　１ペア
・充電器　１個	・脚部（左右）　１ペア
・背延長・枕　各１個	・工具、説明書　各１個
・座クッション（PF は２分割）　１個 ・前バッグ（PF を除く）　１個 ・背バッグ　１個 ・背クッション　１個	

2.各部名称



全体図



操作ボックス上面図



バッテリー部分

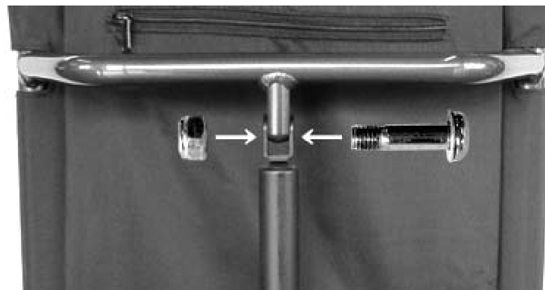
①ハンドグリップ（押手）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②操作ボックス	車いすを動かすための部品です。
③アームサポート（肘かけ）	移乗しやすくなるよう脱着できます。（高さ調節可）
④フットサポート	脱着できるスイングアウト脚部です。
⑤ステップ板	足をのせる板です。
⑥かかと受け	足が滑り落ちないようになっています。
⑦前車輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑧後車輪	駆動輪です。（左右別で動くので、小回りができます。）
⑨クラッチレバー	手動、電動の切替レバーです。
⑩電源スイッチ	ご使用の際に電源を入れてください。
⑪速度設定ボタン（＋）	速度を上げたいときに押してください。
⑫速度設定ボタン（－）	速度を下げたいときに押してください。
⑬クラクションボタン	ホーンを鳴らす際に押してください。
⑭操作レバー	前後左右に押すと進みます。
⑮バッテリー	1 台に 2 個あります。（走行、チルト、昇降、リクライニング兼用です。）
⑯リクライニングレバー	背もたれ角度を調整できます。

※TI、UD、PF の使い方は P. 11,12 をご覧ください。

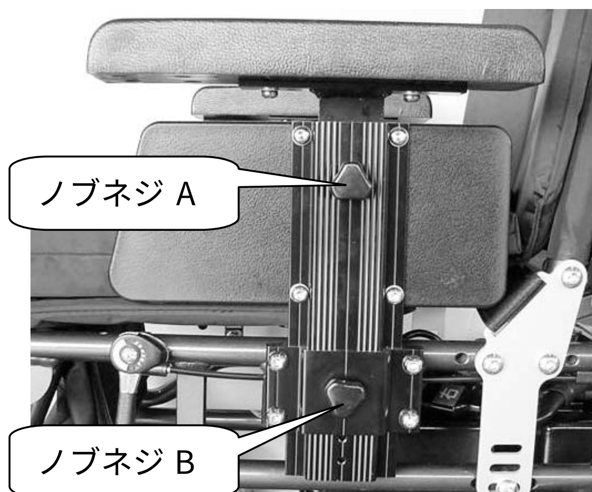
３.組立て方

（１）台車に背もたれパイプを固定します。
①前に倒してある背もたれパイプを起こします。
②背もたれパイプとガススプリングを附属のネジで固定します。（図 1）
③背バッグを背もたれ上部と台車フレーム下部にマジックテープで取り付けてください。

工具：六角レンチ６mm
スパナ１３mm


（図 1）背もたれパイプ部分

（２）左右の肘掛けを固定します。
１）肘掛けを差し込みます。肘掛けの高さはノブネジ A で７段階、ノブネジ B で４段階調節できます。
２）肘掛けの高さを合わせて、ノブネジ A、B（図２）を締めて固定してください。



（図２）肘掛け左側面部分

（３）脚部スイングアウトステップをセットします。
１）ステップパイプをフレームに対して直角（左右に開いた状態）に差し込みます（図３-①）。ステップをカチッとはまるまで回転させて固定します。（図 3-②）



（図３）ステップ取り付け部分

2）左右のステップパイプ先端のボルトをゆるめ、ステップの高さを揃えてからボルトをしっかり締めてください。（図４）

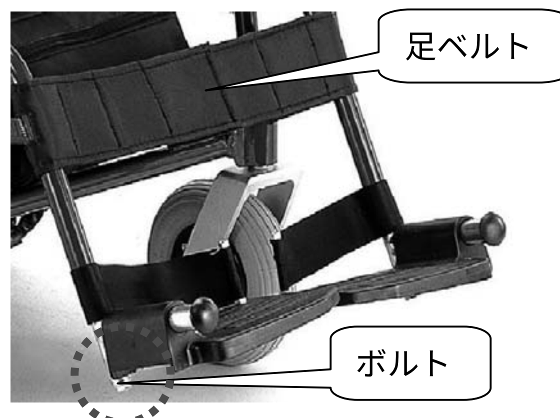
⚠ 警 告

5cm以上

ステップポストの高さは地面より５cm 以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にフットプレートがあたり、転倒する恐れがあります。

３）左右の足ベルトをマジックテープでとめます。（図４）

工具： スパナ１３mm



（図４）ステップ部分

（４）座クッションを所定の位置に置いてください。
（座板は、後部分が回転できるようになっています。通常は後方にセットしてご使用ください。座面下のバッテリーを取り出したりする場合は、それを前方に回転させ、座板は全体を後ろに起こしてください。）
※PF は座面固定式です。

（５）背クッションを置いてください。ポケットが後ろになります。

（６）操作ボックスを肘パイプに取り付けてください。上下に３段階、前後に６段階の調節が可能です。

（７）角型プラグを操作ボックスに差し込んでください。
（ＴＩ、UD、PF にはもう１つ小さいプラグを角型プラグの横に差し込んでください。その他の配線は工場出荷時に完了していますが、緩みがないか、ご確認ください。）

（８）PF のみリクライニング用コントローラーをアームサポート横のフックに引っ掛けてください。

（９）転倒防止車輪を後輪横のパイプに差し込み、付属のネジで取付けてください。

＜TI,UD,PF について＞

〇昇降、チルト及び電動リクライニングは電動でのみ動かすことができます。手動では動きません。

〇昇降、チルト及び電動リクライニングの電源は、走行用バッテリーと兼用ですので通常の充電とは別に充電する必要はありません。

〇昇降、チルト及び電動リクライニングのモーターは連続使用をしないでください。故障の原因になります。

４.運転前の点検

走行する前には必ず次の各部を点検し、異常がないことを確認してください。異常があった場合にはご使用をお止めいただき、お買い上げの販売店にご相談ください。

＜車体まわり＞

タイヤ	◎亀裂や損傷はありませんか？ ◎タイヤの溝の深さ、異常磨耗はありませんか？ ◎釘、石、その他の異物が刺さったり、噛みこんだりしていませんか？ ◎空気は入っていますか？(エアータイヤのみ)
クラッチレバー	◎クラッチレバーは正常に作動しますか？
ねじ、ノブ類	◎ねじ、ノブ類の緩みはありませんか？

＜座席に座って＞

操作ボックス	◎ガタはありませんか？
バッテリーモニター	◎全部のランプがついていますか？
クラクション(警笛)	◎クラクションは鳴りますか？

＜走行して＞

操作レバー	◎押す、離すの操作で走行、停止しますか？
モーター	◎モーターに異常音はないですか？ ◎電磁ブレーキは正常に作動しますか？

５.運転の仕方

（１）クラッチレバーが入（レバーが後向き）になって、車輪が動かないことを確認してください。

（２）平らな場所で乗車してください。

（３）座席に深く腰掛けて座ってください。前寄りに座るとバランスが悪くなり、転倒や事故につながる恐れがあります。

（４）操作ボックスの電源スイッチ（｜/〇ボタン）を押します。バッテリーメーターとスピード設定表示が点灯します。

（５）操作レバーをゆっくり倒してください。レバーを倒した方向に車いすは動き出します。レバーの倒し加減で速度は調整できます。

（６）レバーを中央に戻すか、手を離せばブレーキがかかり車は静かにとまります。

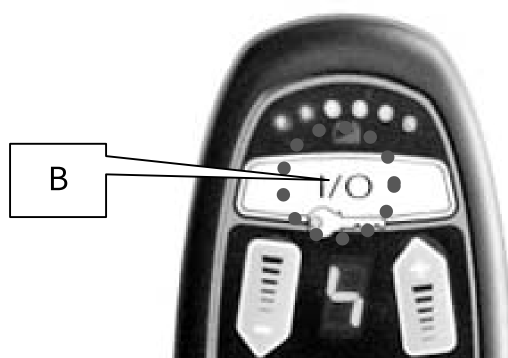
（７）車いすに乗り降りする時、あるいは一時駐車する時は、電源スイッチをもう一度押して電源を切ってください。誤ってレバーに触れると車いすが動き大変危険です。

（８）速度は５段階調整できます。（“５”“４”“３”“２”“１”と数字が小さくなると最高速度が遅くなります。）

速度設定数字を５にすると、Ⅰ型は　4.5km/h，　Ⅱ型は　6km/h の設定です。
設定数字は、＋ボタンを押すと増加、－ボタンを押すと減少します。



（図５-１）マグネットキー



（図５-２）操作ボックス先端部

※マグネットキーの使い方

通常電源スイッチを押すと、電源の入・切ができますが、マグネットキーを使うとカギをかけることができます。

＜電源を切るとき＞

電源が入っているときにマグネットキーの A 部分を操作ボックス先端部の B 部分に近づけると『ピッ』という音と共にパネルの表示が消えます。（図５-１）（図５-２）

このマグネットキーを使用して電源を切った場合、次にご使用になる際はこのマグネットキーでのみ電源を入れられます。

（操作ボックス上面の｜/○ボタンを押しても電源は入りません。）

＜電源を入れるとき＞

電源スイッチを一回押して操作ボックス先端部のカギマークの点滅を確認してください。点滅しているときに、マグネットキーの A 部分を B 部分に近づけると表示が点灯し電源が入ります。

⚠注 意

●必ず平らな場所で乗車してください。

●転倒･衝突の恐れがあります。危険ですのでクラッチレバーを切った状態（手動の状態）では乗車走行しないでください。

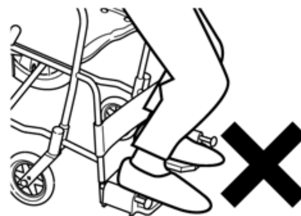
●坂道等ではブレーキが効かず事故につながることがあります。クラッチレバーを切った状態（手動の状態）で放置することはお止めください。

●車いすに乗り降りする時、あるいは一時駐車する時は、電源を切ってください。誤ってレバーに触れると車椅子が動き大変危険です

●クラッチレバーは電源スイッチを切ってから操作してください

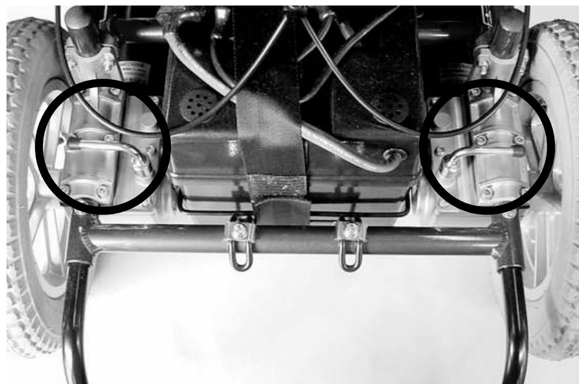
●車いすに乗り降りの際は、必ずフットプレート（ステップ板）を上に跳ね上げてください。

※絶対にフットプレート（ステップ板）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



※手押しの方法

クラッチレバーは電源スイッチを切ってから操作してください。誤って操作レバーを動かすと危険です。モーター（後ろ車輪の横）についているクラッチレバーを９０度（外向きに）動かすとクラッチが切れて手押しができます。運転を再開するときはクラッチレバーを後ろ向きにしてください。



この（外向き）状態で
手押しができます

（図６）後ろから見た図

６.リクライニング、スイングアウト、座面角度調整の仕方

＜リクライニングの仕方（PF 除く）＞

フレームの左右にリクライニングレバーがついています。どちらかのレバーを引いて、背もたれに力を加えると、角度を変えることができます。座面に対して約１２０度まで倒すことができます。

＜電動リクライニングの仕方（PF のみ）＞



○通常、電動リクライニング用コントローラーは操作ボックス取付角パイプにある面ファスナーにかけておいてください。

○リクライニングするときはコントローラーをフックから外し、コードが手前になるように待ちます。

○上側のボタンを押せば上昇し、下のボタンを押せば下降します。ボタンは離すと止まります。

＜脚部スウィングアウトの仕方＞

ロックレバーを後方に押すと、脚部を外に開くことができます。乗り降りの時にご利用してください。また、外に回して脚部全体を引き上げると、取り外すことができます。

＜座面角度調整の仕方（KE15 のみ）＞

台車フレームと座席フレームをつないでいる金具の取り付け高さを変えると、座面角度を変えることができます。水平に対して、３度・５度・８度の３段階の調整が可能です。
（工具：六角レンチ６mm、スパナ１３mm）

＜シート奥行き調整＞

台座フレームと座席及び背フレームをつないでいる金具の取付位置を変えるとシートの奥行きを変えることができます。（工具：六角レンチ６mm、スパナ１３mm）

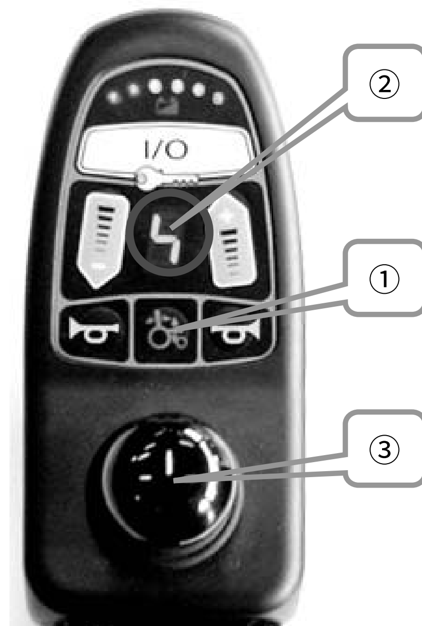
７．チルトまたは昇降の仕方（TI、UD、PF のみ）

（１）電源が入っているときに操作ボックスの車いすマークのボタン（図８-①）を押して昇降モードに切り替えます。

（２）表示が（図８-②）の〇で囲われた部分の様になっているのを確認してください。

（３）レバー（図８-③）を前に倒すと上昇し、手前に倒すと下降します。

（４）走行する場合は車いすマークをもう一度押して速度設定の数字表示に戻します。



（図８）操作ボックス

8．バッテリーの充電の仕方

KE15 は充電式バッテリーでモーターを駆動する電動車いすです。充分な充電ができていないと、平地でのスピードが上がらず登坂力も落ち、走行中に停止する恐れがあります。

《バッテリーに関する注意事項》

⚠ 注 意

●発進、停止の繰り返しや上り坂、段差、溝乗り越えなどが多いとバッテリーからの消費電力が増えるため、通常より走行できる距離が短くなります。

●バッテリーは消耗品です。正常な使い方をしていても、充電を繰り返しいるうちに徐々に劣化し、走行時間・距離が短くなります。

●いつもよりバッテリーモーターのランプの減り具合が早くなったときや、走行できる距離が短くなったときは、バッテリーの交換時期です。早めに専用バッテリーに交換してください。そのまま使われると急激に走行距離が短くなることがあります。

●バッテリーはシールドタイプですので、バッテリー液の補充の必要はありません。

●冬期は気温の低下（特に 10℃以下の場合）によりバッテリーの働きが弱くなるため、走行できる距離が短くなります。０℃以下になると走行できなくなる場合があります。

●バッテリーの充電は必ず専用充電器で行い、火気のない風通しの良いところ、雨露のかからないところで充電してください。

●充電は必ず充電完了まで行ってください。充電の中断を繰り返すとバッテリーの劣化が早まります。

●充電器には冷却用のファンが付いています。そばに物を置いたり、壁に近づけて冷却の邪魔にならないようご注意ください。

●長期間ご使用にならない場合でも、月に一度は充電してください。バッテリーを長持ちさせることができます。

●バッテリーは、充電を繰り返していると本来の性能がでるようになっています。そのためバッテリーを新品に交換した直後は交換前より走行距離が短くなる場合があります。

⚠ 注 意

●車いすが動かなくなるまで走らないでください。バッテリーが過放電となり、寿命が短くなります。したがってメーターが赤色に点灯しましたら、直ちに充電してください。

●バッテリーは電動車いす専用のバッテリーですので、交換時には必ず当社の専用バッテリーをお求めください。万一他社のバッテリーを使用されますと、思わぬトラブルのもとになりますので、くれぐれもご注意ください。

○購入後初めて使用する前に必ず充電してください。

○帰ってきた時に、走った時間が 30 分、距離にして３km 位なら充電は次回にします。それ以上の時は充電します。

○終日使って、走行中にバッテリーモニターのランプが１個以上消えている状態になったら、すぐに充電します。

○長時間使用しないと自然に放電しますので、使用する前に必ず充電してください。

○走行中にバッテリーの残量が少なくなってくると、右から順次ランプが１個ずつ消えます。

○走行中に３個以上消えるときはバッテリー切れになりますからすみやかに充電してください。



（図９）操作ボックス先端部

⚠ 注 意
● 坂道や冬期、使用状況や使用年数により走行時間・距離が短くなります。帰るときのことを考え、余裕を持って走行してください。 ● 坂道などでは残量表示ランプがついたり消えたりする場合がありますが、瞬間的に電気の使用量が増えるためであり、異常ではありません。

《充電の仕方》

①操作ボックスの上面にある｜/○ボタンを押して電源を切ります。（図 10）



（図 10）操作ボックス先端部

②充電器の電源スイッチが OFF（「○」マーク）になっていることを確認して、操作ボックス下部にある充電プラグ端子に充電プラグを差し込んでください。（図 11）



（図 11）操作ボックス真正面部

③充電器の電源コードをのばし、家庭用 100V コンセントに差し込みます。

④充電器の電源スイッチを ON（「｜」マーク）にします。（図 12）

このとき、スイッチの反対側にある赤色の電源ランプと橙色の充電ランプが点灯し、充電を開始します。（図 13）

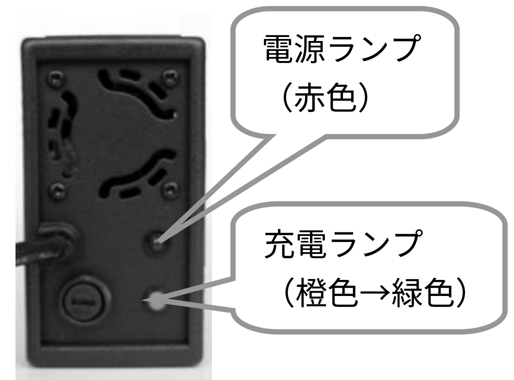


（図 12）充電器全体

⑤充電が完了すると橙色の充電ランプが緑色に変わります。電源スイッチを OFF（「○」マーク）にして、電源コード、充電用プラグの順に抜きます。

※充電ランプが変わった後も 2〜3 時間充電を続けることで完全充電ができ、それを繰り返すバッテリー劣化による性能低下を和らげることができます。

※バッテリーの残量により、充電にかかる時間は異なります



（図 13）充電器一面

⚠ 注 意

●バッテリーおよび充電器は専用の部品であり、この製品以外は絶対に使用しないでください。

●充電中にバッテリーに火気を近づけないでください。引火、爆発する恐れがあります。

●手や車体が濡れているときは乾くまで触らないでください。感電の恐れがあります。

●バッテリーを掃除するときは、乾いた布で拭かないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあります。

●充電器は車いすの背中のバッグに入れて携帯できます。充電をするときはバッグから出して充電してください。バッグにいれたまま充電すると、熱がこもり充電器の故障の原因、車いすの火災の原因になる恐れがあります。

●直射日光を避け、風通しのよい場所で充電してください。

《バッテリー交換の仕方》

＜KE15＞

（1）電源スイッチを切ります。

（2）座面板を上へ持ち上げて、バッテリーケースを固定しているベルトを外します。

（3）２つのバッテリーを接続しているコネクタを外します。

（4）ケースごとバッテリーを両手で持ち上げます。（昇降、チルト仕様は異なります）

（5）ケースを開け、バッテリーコードを外し、新しいバッテリーと入れ替えてコードを接続します。（＋〈赤〉、－〈黒〉の線を間違えないよう注意してください）

（6）ケースのふたをして、車体に積み込み、コネクタを接続してください。バッテリーケースはベルトでしっかり固定してください。

＜KE15PF＞

（1）座面を半分の高さまで上げて、電源を切ります。

（2）バッテリーの固定ベルトとコネクタを抜いて樹脂カバーを外します。

（3）2 つのバッテリーを接続しているコネクタを外します。

（4）バッテリーを後ろ側から引出します。

（5）バッテリーコードを外し、新しいバッテリーに付け替えます。（＋赤、－黒の線を間違えないよう注意してください。）

（6）（1）～（4）と逆の手順で積み込んでください。

⚠ 注 意

●バッテリーを交換するときは指をはさまないよう注意してください。

●使用済みバッテリーはそのまま廃棄せず、販売店に相談してください。

●工具等でバッテリーの（＋）端子と（－）端子を短絡させないよう注意してください。

９．分解の仕方

カワムラサイクル電動車いすは、運搬しやすいように分解することができます。分解した場合は、自動車の後トランクに入ります。分解の仕方は組立順序と逆の手順で分解してください。

※分解、組立、また自動車等で、車いすを運搬されるとき等は、コントロールボックスはできる限り静かに扱ってください。万一、落としたり､ぶつけたりしますと故障の原因になる場合がありますのでくれぐれもご注意ください。

１０．保管の仕方

○月に一度は充電してください。

（バッテリーは使用しなくても自己放電して電気容量が減ります。減りすぎるといくら充電しても元の性能は取り戻せなくなり、バッテリーが使用不能になってしまいます。くれぐれもご注意ください。）

○タイヤの空気は使わなくても減っていきます。放っておくとタイヤをいためますので、月に一度は空気圧を点検し、空気を補充してください。

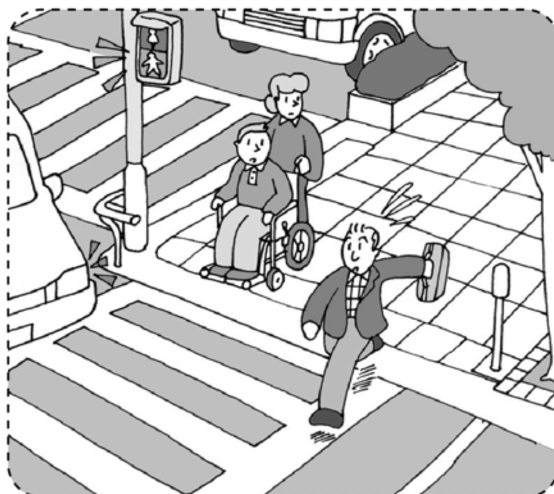
○直射日光や水・雨水・露のかからない場所に保管してください。

１１.車いすの主な乗り方＜各部の点検･保守方法＞

⚠ 警 告

●タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」､「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では､「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。



ゆっくりと腰を下ろしてもらう。※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

12．故障かなと思ったら･･･

次のような症状がみられたら、次の表に従い点検を行ってください。
それでも異常がみられる場合はただちに使用を中止し、販売店にご連絡ください。

症状	点検方法	対処方法
電源が入らない	配線、コネクタは外れていませんか？	⇒しっかり接続してください。
	マグネットキーで電源を切っていませんか？	⇒マグネットキーで電源を入れてください。
走らない	電源スイッチは入っていますか？	⇒電源をいれてください。
	バッテリーモニターのランプは６個全て点灯していますか？	⇒バッテリーを充電してください。
	クラッチレバーは 手動になっていませんか？	⇒ 電動にしてください。
ハンドルが重いまたは軽い	タイヤの空気圧は正常ですか？	⇒お近くの自転車店、オートバイ店、ガソリンスタンド等でお確かめください。
走行時間が短くなった	充電が完了するまで充電しましたか？	⇒充電が完了(充電器の緑ランプ点灯)するまで充電してください。
	バッテリーを交換したのは１年以上前ですか？	⇒バッテリーを交換してください。
充電できない	充電器の電源ランプ(赤色)は点灯していますか？	⇒コンセントの差し込みをお確かめください。
	充電差込プラグはしっかり接続されていますか？	⇒プラグの差し込みを確認してください。
	充電器のヒューズは、切れていませんか？	⇒ヒューズが切れていないか確認してください。

１3.仕　様

車　　　　　種	電動車いす　ＫＥ１５
制　御　方　式	ジョイスティック電子回路制御方式
モーター定格出力	２４Ｖ×１９２Ｗ×２ケ
駆　動　方　式	後輪直接駆動方式
制　動　方　式	モーター発電制動および全自動電磁ブレーキ方式
操　舵　方　式	後輪の左右回転差および前輪キャスターによる操縦方式
ﾊﾞｯﾃﾘｰ容量（５時間率）	１２Ｖ×３６Ａｈ×２ケ（完全密閉型）
充　　電　　器	自動充電方式
最高速度(変更可)	Ｉ型は　4.5km/h　　　II型は　6.0km/h
連続走行時間(距離)	約 3.5 時間（約 25km）　　但し、バッテリーが初期性能の時
充　電　時　間	約１２時間　（バッテリーの放電状態により増減あり）
登　坂　角　度	８度
段差乗越え高さ	約４㎝
制動性能(変更可)	１m以下(平坦なコンクリート路)
フレーム構造	座面角度調整可　　３度、５度、８度（KE15 のみ） 背もたれ角度　　　９０度から１２０度無段階 肘当て内巾寸法　　４０～３４mm 調整可 脚部スイングアウト
座　　　　　巾	４０cm
前　車　輪　径	２００mm×５０mm　　ノンパンク
後　車　輪　径	３３０mm　空気入りタイヤ、タイヤ圧 2.8kgf/c ㎡
重　　　　　量	６０．５kg（KE15） ６９．２kg（KE15-TI/KE15-UD） ７３．５kg（KE15-PF）
長さ×巾×高さ	1,１４０×５７０×９７０－1,１４０mm
分解時（長さ×巾×高さ）	７５０×５７０×７００

※上記仕様は改良等により、予告なしに変更する場合があります。

※ＫＥ15 型の基本性能は JIS９２０４－１９９９の基準に適合しています。

※連続走行距離は、常温（20℃)、標準体重（75kg)、満充電の新品バッテリーで平坦路を最高速度で連続走行したときの距離を示しています。

１４.定期点検と記録

安全に使用していただくために下表にしたがって購入 1 ヶ月後、その後 6 ヶ月毎に点検してください。

＜車体まわり＞

バックミラー 反射板（リフレクター）	汚れや損傷はありませんか？ 破損、ガタはありませんか？
タイヤ	亀裂や損傷はありませんか？ タイヤはすり減っていませんか？ 釘、石、その他の異物が刺さったり、噛みこんだりしていませんか？ 空気は減っていませんか？
タイヤ取付部	ボルトの緩みやガタはありませんか？
バッテリー	接続部の緩みはありませんか？ 外装の変形やひび割れはありませんか？
配線	ケーブルの破損はありませんか？ コネクターの緩み、損傷はありませんか？
クラッチレバー	正常に作動しますか？
シートレバー	正常に作動し、確実に固定されていますか？
ネジ、ノブ類	緩みはありませんか？
非常用ブレーキ	正常に作動しますか？

＜座席に座って＞

ハンドル	大きなガタつきはないですか？ 左右スムーズに動きますか？
バッテリーモニター	満充電後に残量表示の目盛りがすべて点灯していますか？
ホーン（警笛）	ホーンはなりますか？

＜走行して＞

アクセルレバー	押さえる、放すの操作で走行、停止しますか？
前・後切替スイッチ	前進・後進しますか？後進時、ブザーが鳴りますか？
最高速度設定ダイヤル	速度変化しますか？
モーター	異常音はないですか？ 電磁ブレーキは平坦路では 1m以内で止まりますか？ 下り坂（10 度以下の坂）では 1.5m以内で止まりますか？

＜定期点検記録簿＞

（販売店の方へ）

定期点検記録を下表にご記入ください。

点検項目	購入 １ヶ月後	６ヶ月後	１年後	１年半後	２年後
バックミラー					
反射板（リフレクター）					
タイヤ					
タイヤ取付部					
バッテリー					
配線					
クラッチレバー					
シートレバー					
ネジ、ノブ類					
非常用ブレーキ					
ハンドル					
バッテリーモニター					
ホーン（警笛）					
アクセルレバー					
前・後進切替スイッチ					
最高速度設定ダイヤル					
モーター					
点検実施店名					
点検実施日					

＜部品交換の記録＞

１５.車体番号

アフターサービスなどを的確に受けるため、車体番号を記録しておいてください。
車体番号は車体後方の車体カバーに貼り付けられています。

車　　　種	
車 体 番 号	
製 造 年 月	年　　　月

＜車体番号貼付位置＞



１６.保証

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に当社へご返送ください。

保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。 （消耗品に関しては、保証外となります。）

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店または弊社にご依頼ください。

★保証期間後

お買い上げの販売店または弊社にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（ａ）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびバッテリー、パンク、シートの破損等
（ｂ）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（ｃ）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（ｄ）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（ｅ）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（ｆ）一般に電動車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損

地球の環境保護のため、
廃棄するときはそのまま放置しないで
各自治体の取り決めにしたがってください。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで

各自治体の取り決めにしたがってください。





株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-３-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックスビル ５階	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2008.8